

【様式1】

平成24年度「学生との連携・協働事業」実施状況調査

(大項目) 鯖江ならではのまちづくり

(中項目) 学生が輝くまちづくり

(小項目) 鯖江で活動していただいた県外の大学生に、鯖江に就職、定住してもらう活動を展開します。

事業名	連携・協働の内容	実施時期	区分	所管課	担当者	①学生の参加状況	②参加を促すための取組み	③学生の意見等	④担当課の意見等
1 学生との連携によるうるしの里活性化(河和田アートキャンプ)事業	県内外の学生をうるしの里河和田地区に受け入れ、学生の持つ知性・感性・創造性を有効活用しながら、河和田地区内の豊かな地域資源である「越前漆器産業」や「眼鏡産業」などの地場産業をはじめ、田園や里山などの自然環境を活用した地域づくりを創造する。	通年	非公募	商工政策課 鯖江ブランド推進グループ 53-2231	西川 法昭	2大学 95人		参加している学生からは、本事業を通して得られた貴重な経験に対する感謝が寄せられており、リピーターとして来年も参加したいなどの意欲的な意見が聞かれる。	間接的ではあるが、本事業を通して、地場産業などに興味を示す学生が表れ、平成24年度末の時点で5人の定住につながっており相応の成果が出ている。

(小項目) 学生を「市政パートナー」として位置づけ、柔軟な発想と活動を支援しながら、協働でのまちづくりを進めます。

事業名	連携・協働の内容	実施時期	区分	所管課	担当者	①学生の参加状況	②参加を促すための取組み	③学生の意見等	④担当課の意見等
1 日中外国語大学と地域住民との「絆」交流促進事業	北京外国語大学を中心とした中国人学生14人と東京外国語大学を中心とした15人の大学生計29人が、「日中の若者と高齢社会」をプロジェクトテーマに、地域住民との膝を交えた交流を図りながら、調査研究を行い、報告書を作成する。 ※日中交流学生団体「京英会」が主催する「日中相互訪問プロジェクト2012」における地方見学として実施する。	8/15(水) ～18(土)	非公募	市民協働課 地域自治・市民活動グループ 53-2215	高橋 藤憲	東京外国語大学 15名 北京外国語大学 14名	日中交流学生団体「京英会」において、参加者を募集し、調整。	<ul style="list-style-type: none"> 鯖江市の美しい空や星、青々とした木々に感動した。 参加して良かった。 生き生きとした生身の日本人の様子に触れ、彼らの友好的な親切さにとても感動した。 積極的な心と心の交流ができた。 世界は多元である故に美しく、文化は差異が有る故に素晴らしい。互いの文化を交歓学習し、互いの理解と友情を深めることができた。 日中間の更なる平和と友好をもたらすことができると信じています。 来年も鯖江市を訪れたい。 	今年初めての試みではあったが、鯖江市日中友好協会をはじめ、そば打ちの会、学生団体With等の積極的な協力のもと、中国人学生や東京在住の学生に鯖江の豊かな自然や文化を紹介することができた。 また、地域住民との膝を交えた日中交流により、大都市圏だけでなく、中国社会での鯖江の知名度アップが図られ、学生の意見等にもあったように地域住民による日中友好の絆を構築することができたと思われ、来年度も継続して実施していきたい。
2 児童センター活動事業	児童センターにおいて創作児童劇の公演をした後、児童に遊び等の指導をしていただく。	年3回	非公募	児童福祉課 母子児童グループ 53-2224	森川 善昭	福井大学 10名	市内児童センター児童厚生員からの依頼(今年度は北中山児童センターのみ)	劇には日々の生活習慣を正したり、やさしい気持ちになれるようなメッセージをこめている。劇や集団行動の遊びを通して、子どもたちに人はみんなつながっていると感じてもらえるよう今後ともこの活動に取り組んでいきたい。	今年の児童劇のテーマは「みんなで節電」、児童に分かりやすく節電の必要性を訴える啓発劇であった。また劇前に実施するゲームは、子ども達から毎年好評である。今年度は1館のみでの実施であったが、来年度以降先方とのスケジュールがあれば、より多くの児童センターで児童劇公演を実施していきたい。
3 明治大学連携事業 子どもたちのスポーツ強化事業	明治大学との連携事業の一環として、同大学のスポーツ部員を招いて市内小学生、中学生への競技指導および交流を図る。 毎年、同大学のスポーツ部から1クラブ数名の部員を招いて、市内の子どもたちへの指導を受けるとともに、スポーツを通して、学生と子どもたちの交流を図る。平成24年度は、福井県ナンバー1だった選手が所属する卓球部員を招聘する。	7月～8月	非公募	スポーツ課 スポーツグループ 53-2260	岩田 祐弘	明治大学卓球部 5名程度	平成24年4月に明治大学卓球部へ指導の依頼および日程調整を行い、8月21日・22日で開催した。	大学生活では小、中学生との関わりが無いため、とても貴重な経験であり、楽しく指導できた。	今年初めての試みではあったが、鯖江市卓球協会をはじめ、市内の3中学校、小学生の王山卓球クラブ、全国大会を制覇した越前市の南ラボクラブ(鯖江の小学生が3名参加)の積極的な協力のもと、オリンピック出場等全日本の覇者の田嶋監督率いる全国トップレベルの明治大学学生にすばらしい技術指導を受けることが出来た。また、鯖江の豊かな自然や文化を紹介することができた。機会があれば、今後も実施を考えたい。
4 鯖江つつじマラソン	円滑な大会運営と地域ぐるみの大会を目指し、競技役員として参加いただく。	平成23年5月8日	非公募	スポーツ課 スポーツグループ 53-2260	中嶋 一二	丹南高校20名	平成24年3月に王山レオクラブの顧問の先生に協力依頼を行った。	日赤奉仕団の方々と一緒に活動を行ったため、戸惑いもなく、楽しい活動となった。今後も協力していきたい。	昨年同様、日赤奉仕団と連携して、参加者の接客部門(給湯、豚汁、飲料水配布)をお願いしたが、会場全体の活性化につながったと感じた。ただ試験期間前ということもあり、少数の参加になってしまったことが残念であった。来年度以降も連携を取っていきたい。
5 鯖江市スポーツ少年団リーダースクール	各単位団のリーダーを育成するために、企画段階から協力いただき、開催当日は指導者として参加いただく。	平成24年8月22日～23日の2日間	非公募	スポーツ課 スポーツグループ 53-2260	刀祢可成子 中嶋 一二	福井大学生約10名	平成24年4月に福井大学田中教授へ昨年同様の内容で協力いただきたい旨を依頼した。	大学生活では小学生との関わりが無いため、とても貴重な経験であり、楽しく活動できた。また大変勉強になる活動であった。	来年も福井大学と連携して開催したいと考えている。
6 総合型地域スポーツクラブのスクール運営	市内3つの総合型地域スポーツクラブで、スクールの指導者として参加していただく。	通年	公募	スポーツ課 スポーツグループ 53-2260	中嶋 一二	なし	年度当初に市内3つのクラブ合同での会員募集チラシを発行しているが、指導者の募集も併せて行った。	なし	広報誌にて募集を継続しているが、なかなか申込みが無いが、継続的に募集をしていきたい。

事業名	連携・協働の内容	実施時期	区分	所管課	担当者	①学生の参加状況	②参加を促すための取組み	③学生の意見等	④担当課の意見等
7 さばえ環境フェア	「さばえ環境フェア2012」の企画、運営に参加していた。	平成24年8月	非公募	環境課 環境グループ 52-0050	牧井 三郎	福井高専 約20名	各大学学生課などを通じてボランティア募集 特に仁愛大学に関しては、縁故の教授に依頼して紹介をいただく		■200名の小学生が参加したが、学生を中心としたボランティアが前年度と比べ少なく残念であった。今回は連合婦人会等にボランティアをお願いしたが、子どもたちは学生サポーターの方が接しやすそうであった。
8 こどもエコクラブ活動交流会	「こどもエコクラブ活動交流会」の企画、運営に参加していただく。	平成25年2月	非公募	環境課 環境グループ 52-0050	牧井 三郎	仁愛大学 3名 福井大学 1名	本事業は地域で地域の方の協力を得ながら行う事業であり、地域の方によるボランティアを募集するが、特に学生に特化した募集は行っていない。		本事業は、地域の方に地域の子どもの育ててもらうことで、地域の教育力向上を目指すものであり、関わるスタッフについては学生に特化したものではない。しかし、ボランティアに学生が加わり、地域の弟・妹世代の子どもたちと関わることで、今後も若い世代が地域と繋がりを持つことを期待するものである。
9 公民館合宿通学事業	地域の大人たちとの交流の中で、コミュニケーション能力や家庭における基本的な生活習慣を身につけるため、小学校4年生以上の児童が地区公民館で宿泊しながら通学する事業にボランティアとして参加していただく。	立寄地区 H24.6.7~9 豊地区 H24.6.14~16 北中山地区 H24.6.21~23 中川地区 H24.7.5~7 吉川地区 H24.7.19~21 榑明地区 H24.7.26~28 河和田地区 H24.9.6~8 新横江地区 H24.9.20~22 鯖江地区 H24.9.28~29	非公募	生涯学習課 生涯学習グループ 53-2255	中嶋 誠一 熊野 正章	京都精華大学3人 男:3名 女:0名	本事業は地域で地域の方の協力を得ながら行う事業であり、地域の方によるボランティアを募集するが、特に学生に特化した募集は行っていない。河和田公民館における合宿通学事業においては、昨年度に引き続き、アートキャンプのために鯖江市を訪れていた京都精華大学の学生がボランティアとして協力してくれた。	ボランティアの中では、学生は年齢も子どもたちに近く、子どもたちからなつかれ、一緒に楽しむことができた。	本事業は、地域の方に地域の子どもの育ててもらうことで、地域の教育力向上を目指すものであり、関わるスタッフについては学生に特化したものではない。しかし、ボランティアに学生が加わり、地域の弟・妹世代の子どもたちと関わることで、今後も若い世代が地域と繋がりを持つことを期待するものである。
10 鯖江版地域交流プロジェクト (さばえファームリーグ2012)	県内外、学生社会人を問わず若い人達等が中山間地に集い、週末や休暇を利用して休耕田で、楽しみながら農業に親しみ、農産物を使った食事懇談や、創作料理、菓子などへの活用、朝市などでの販売活動、地域交流等を企画実施し、食と農や地域への理解を深めることにより、農作物の地産地消と耕作放棄農地の減少、地域間交流を推進し、地域の活性化を図る。	通年	公募	特産づくり応援室 特産づくりグループ 53-2232	竹内 陽一	東京大学の学生1名が参加 (1泊2日) 県外から34名の参加、延べ人数は104名。	県を通じての広報 国土交通省のHPに掲載 協定を結んでいる明治大学でのPR	さばえブランド大使になる学生が多く、また鯖江を訪れたいという声が多かった。	来年も県と協議し、実施。 日帰り型の農業体験も進めたい。
11 さばえ特産物おいしい応援団事業	1 かわだアートキャンプOB,OG等、本市にゆかりのある若者たちを鯖江市のスポークスマンとして活用し、本市のブランド野菜や農工商連携商品を全国にPRし、販路拡大につなげる。 2 かわだアートキャンプ参加者等に鯖江産野菜等の食材について、ブログやツイッターに食感や味などの感想を載せてもらい、情報交換の中で、口コミでの広がりを誘発する。 3 大学学園祭等で、学生の協力により鯖江の食材を販売PRし、農産物の販路拡大につなげる。	通年	非公募	特産づくり応援室 特産づくりグループ 53-2232	竹内 陽一	③8月のご縁市・誠市での出店に向けて、市内農産物を使った料理を学生団体に所属する10名ほどが中心となり試作している。 広報や会計、パッケージ印刷など各セクターに責任者を置き運営している。 学生団体と市内の若者が連携し、「WithPlus」として総勢30名が活動。	Facebookでの募集を中心に地域活性化に興味のある学生が集まっている。 農家の栽培講習会に連れて行ってハウスの中で直接農作物に触れる機会をつくる等の工夫をしている。	来年度も実施したいという声がある	さばえ特産物おいしい応援団事業という名称はなくなるが、別事業(アンテナショップ事業)で活動を継承していく

事業名	連携・協働の内容	実施時期	区分	所管課	担当者	①学生の参加状況	②参加を促すための取組み	③学生の意見等	④担当課の意見等	
(小項目) 災害ボランティアやまちづくりへの協力など大学との連携を進めます。										
1	誠市&ご縁市	中心市街地の活性化を目的に開催される誠市およびご縁市への集客力アップと街なかの賑わいを創出するため、企画・運営に参加していただく。	毎月1回(4月~12月、3月の第2日曜日6:00~14:00まで) ※ご縁市は9:00から	非公募	商工政策課 商労観光グループ 53-2229	辻岡 秀祥	仁愛大学から月1回の誠市実行委員会とご縁市運営委員会に、2名ずつ出席し、こども向けのイベント等を企画。イベント当日にはそれぞれ、5名前後(計10名)が参加。	仁愛大学コミュニケーション学科金田研究室に依頼	子どもとふれ合える貴重な機会である。自分たちで企画から材料の調達、当日の運営まで携われるので良い経験となった。子どもたちの喜んでる顔を直接見られるので、やっいて楽しい。	誠市・ご縁市で継続して仁愛大学生が実行委員として参加し、毎月企画を提案している。特に今年は誠市・ご縁市、福井鉄道沿線のイベントを連携させるスタンプラリーで幅広い地域からの集客、街なかの賑わいの創出を図ることができた。今後も様々な連携事業の企画を提案・実施し街なかの賑わい創出を図っていただきたい。
2	第4回「鯖江市地域活性化プランコンテスト」	鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会にスタッフとして参加していただく。	平成24年9月8日~10日	公募	商工政策課 商労観光グループ 53-2229	辻岡 秀祥	運営スタッフとして福井県立大学、福井大学、福井高専、仁愛大学の学生が27名参加。	過去参加スタッフへ協力呼びかけ ※HP等で開催告知	地域活性化に興味があったので参加してよかった。大学の先輩からの紹介で参加したが、自己成長につながった。他県での地域活性化の取り組みに関する情報も集まる良い機会、地域活性化活動の具体的なイメージが湧いた。河和田の職人さんなど、地元の熱に触れることが出来た。地元の人との触れ合いが良い思い出になった。参加者のレベルが高く、良い刺激になった。	5回目の今回、県内大学生による学生団体withを中心となり運営にあたった。事前に鯖江の学習会を開き、それぞれのチームに地元学生スタッフがサポートするなど、事務局・参加学生と綿密に連携して進めるなど、学生の主体性、ノウハウも上がっている。
3	ライフパートナー事業	教員を目指す学生とともに、不登校児のケア、学校への復帰の支援を行う。	通年	非公募	教育政策課 学校教育グループ 53-2253	田中 賢一郎	福井大学生13人(男性3名・女性10名)が登録し活動している。	福井大学の講義の一環であり、鯖江市内での活動を希望する学生を受入れている。	ライフパートナーの活動で、時間がかかっても関係を作っていくことの大切さを感じた。	学校において不登校傾向および発達障がいのある児童生徒への個別支援の必要性が多くなっている状況において、ライフパートナーに対する要望は多い。児童生徒にとって教師や親とは異なり、子供の目線に立ったかわりには登校支援および学校生活適応支援つながり成果が上がっている。また、ライフパートナーとなる学生は教員志望であり、学校および児童生徒の実態把握には最適な活動となっている。
4	明治大学との連携事業 鯖江ブランド創造	「鯖江市の強みと地域が抱える課題」を学生が取材し、そこから学生たちが鯖江市に対してどんな価値を提供できるか<鯖江ブランドの創造>を考え、提言する。	平成24年8月27日~30日	非公募	企画財政課 企画財政グループ 53-2220	藤田 陽子	8月27日~8月30日の4日間、16名の学生が4グループに分かれて鯖江市でフィールドワークを行い、11月18日のものづくり博覧会の会場で成果発表を行った。	明治大学社会連携事務室が窓口となって学生募集を行った		市内で担当課を決め、学生にはテーマに基づいてフィールドワークと提案提案を行ってもらった。フィールドワーク期間中、「熟議」として職員以外の関係者も含めて議論を深めた。明治大学とは連携協定を締結しており、様々な連携事業を実施しているが、次年度も連携事業の一環として実施したいと考えている。
5	金沢大学 まちづくりインターンシップ	まちづくり団体等インターンシップを行い、市および団体にまちづくり提案を行う。	平成24年8月6日~17日	非公募	企画財政課 企画財政グループ 53-2220	藤田 陽子	金沢大学地域創造学類地域プランニングコース2年生3名が、8月6日~8月17日の12日間、鯖江市でまちづくりインターンシップを行った。	金沢大学が調整(地域プランニングコースの必修授業)	初めてすることも多く、貴重な体験がたくさんできました。心に残る2週間となりました。ありがとうございました。	11泊12日間という長い期間、河和田の古民家に宿泊し、自炊・洗濯など生活面でも大変な中、自分たちで楽しみを見つけ活動していた。

(小項目) 学生の活動拠点「ら・てんぼ」を充実させ、学生の集まるまちづくりに努めます。

事業名	連携・協働の内容	実施時期	区分	所管課	担当者	①学生の参加状況	②参加を促すための取組み	③学生の意見等	④担当課の意見等
1 学生活動拠点(ら・てんぼ)活性化事業	「鯖江街なか賑わいプラン」推進の一環として、中心市街地の商店や住民と交流を図りながらイベントを開催するなど、街なかの賑わいに繋がる事業を展開していただく。	通年	非公募	商工政策課 商労観光グループ 53-2229	辻岡 秀祥	学生団体withの活動拠点として活用 福井大学2名、福井県立大学22名、福井高専2名、仁愛大学1名の学生計27名が参加している。	各大学の新生へ勧誘チラシを配布。参加する学生がブログ等で参加者を募集している。	会議の場としてらてんぼを利用しているが、設備も整っており大変重宝している。遅くまで利用できるため、集まりやすい。こ緑市などに参加することにより、地元のことより知ることができた。	withの活動拠点としてこ緑市などのイベントや打合せの場として利用されているほか、就活セミナーの会場としても活用されるなど、高校生・県内学生などwithのメンバー以外も、らてんぼに足を運ぶ機会が増えている。

(中項目) 若者が定着するまち さばえ

(小項目) 農工団地の指定等による企業誘致や工場立地法の規制緩和等による工場の増設を推進し、雇用の増大を図ります。

事業名	連携・協働の内容	実施時期	区分	所管課
-----	----------	------	----	-----

該当なし

(小項目) 産学官の連携を強化し、中小企業や若者の起業・創業を支援します。

事業名	連携・協働の内容	実施時期	区分	所管課
-----	----------	------	----	-----

該当なし

(小項目) 丹南高校と連携して取り組んでいる地場産業就業体験やデザイン講座などの「ものづくり教育」を強化し、ひとつづくりに取り組みます。

事業名	連携・協働の内容	実施時期	区分	所管課	担当者	①学生の参加状況	②参加を促すための取組み	③学生の意見等	④担当課の意見等
1 鯖江市の魅力発信	鯖江市を紹介するために制作したフリーペーパーやホームページ、市内の風景やイベントなどを撮影した写真や映像を提供していただき、鯖江市の公式ホームページなどで紹介・公開する。	通年	公募	秘書広報課 秘書広報グループ 53-2202、53-2203	服部 聡美	【学生写真館】 丹南高校写真部3年生5人から5～7点、計29点の作品提供。 【さばえCM大賞】 河和田アートキャンプに参加している京都精華大学、福井南高の学生から作品応募。	【学生写真館】 8月中旬に学校へ出向き写真部の顧問教師を訪問。参加・協力を依頼する。3月上旬に作品を受領。 【さばえCM大賞】 7～8月に学校へ出向き、教師や顧問、学生代表に作品応募を依頼。10/15までに作品を受領。	【学生写真館】 市HPのトップページに掲載され、卒業の記念になるとともに、たくさんの人に見てもらえるということでもちバージョンが上がり、よりよい作品づくりにつながる。	■今年も学生らの作品をHP(学生写真館)に掲載する取り組みを継続したい。 ■CM大賞への作品応募への呼び掛けについては、これまで以上に行っていきたい。
2 丹南高校連携地場産業後継者育成事業	丹南高校の特徴(地域総合学科)を活かした事業を展開することで、地場産業への関心を高めるとともに就業機会の向上を図る。	7月～11月	非公募	商工政策課 鯖江ブランド推進グループ 53-2231	西川 法昭	未定	高校内で参加学性を選定	第一線で活躍されているデザイナーさんの話や実際使用している道具を見れて勉強になった。眼鏡の製造工程が細かく分かれていて、ひとつの眼鏡を作るのに多くの人の力があって完成するということがわかった。眼鏡の技術を応用して医療器具を作っているため、眼鏡の技術のすばらしさが分かった。	地元の学生の地場産業への興味・関心を深め、就業への新たな担い手の育成に繋がっている。

※ 非公募事業とは、すでに個別に交渉を行って進めている事業などで、相手方が特定されている事業のことです。また、項目の仕分けは、主たるものに分類しています。